

530 軟部腫瘍のGa-67シンチグラフィー

中野俊一，長谷川義尚，井深啓次郎，橋詰輝巳，
野口敦司（大阪成セ核），小松原良雄，林英紀，
（大阪成セ整外）

軟部腫瘍の診断におけるGa-67シンチグラフィーの有用性をしらべるために昭和52年以降・当成人病センターで検査した軟部腫瘍例のGa-67シンチグラムの成績を検討した。シンチグラフィーはGa-67クエン酸ガリウム3mCi静注72時間後にガンマカメラで施行した。この間に39例の悪性軟部腫瘍例を検査したが、このうち治療前11例及び治療後の再発14例の計25例についてGa-67シンチグラムの陽性率をみると、悪性線維性組織球腫9/10、平滑筋肉腫4/5、脂肪肉腫2/4、線維肉腫2/2、その他1/4、合計18/25（72%）であった。一方良性的軟部腫瘍20例（脂肪腫14例、神経鞘腫4例、その他2例）ではGa-67の集積をみた例はなかった。以上の成績よりGa-67シンチグラフィーは悪性線維性組織球腫などの悪性軟部腫瘍の診断に有用と考えられる。

531 Adult T-cell Lymphoma Leukemia (ATLL) 患者のガリウムシンチグラフィ

星 博昭，陣之内正史，原田邦子，蛭原弘明，
二見繁美，渡辺克司（宮崎医大 放）

Adult T-cell Lymphoma Leukemia (ATLL) は、九州南部に多発する予後不良の疾患である。今回、われわれはATLL 20例に対し、ガリウムシンチグラフィを施行し、その臨床的評価を行なった。

用いた装置は、中エネルギー用コリメータを装着したガンマカメラ400T (G.E)，LFOV (Searle) およびΩ500 (Technicare) である。⁶⁷Ga-citrate 3mCiを静注、72時間後に、頭部、胸腹部、骨盤の正面および後面像を撮像し、一部の症例にSPECTも施行した。また、予後判定に有用とされている血清LDH、Ca、末梢白血球数とガリウムの集積度と比較検討した。

リンパ節および肺、肝、骨の臓器浸潤部位に異常集積がみられた。また、異常集積がみられた例では、血清LDH、末梢白血球数の高い傾向がみられた。

ガリウムシンチグラフィは、ATLLの病変範囲の診断や、経過観察に有用と思われる。

532 Ga-67シンチグラフィにおける骨髄への高度集積例について

池窪勝治 日野 恵 那須浩二 鄭 新都
山口晴二 才木康彦 伊藤秀臣（神戸中央市民核） 千田道雄（京大 核）

Ga-67シンチグラフィにおいて、骨髄へのGa-67の強い摂取を示す症例をしばしば経験する。その理由の一端を明らかにするため、以下の検討を行った。

対象は1985年1月から12月までの1年間に施行したGa-67スキンの延べ803例の成人患者である。シンチグラム上、Ga-67の骨髄への集積度をⅠ型（正常）、Ⅱ型（中等度集積）、Ⅲ型（高度集積）の3型に分類し、集積度と疾患の関係につき検索すると共に血液、生化学検査成績とも対比した。

Ⅰ型は532例(66.3%)、Ⅱ型は233例(29.0%)、Ⅲ型は38例(4.7%)にみられた。Ⅲ型のうちの26例(67%)が悪性、10例が良性疾患であり、他は不明であった。悪性疾患26例の内訳は肺癌7例、泌尿生殖器系の癌6例、悪性リンパ腫4例の他、各種の悪性疾患であった。良性疾患の10例は血液疾患3例と種々の炎症疾患であった。

Ⅲ型では血清鉄、ヘモグロビン、A/G比の低下を示す例が多く、CRPは強陽性の傾向を示した。

533 ¹²³I-IMPシンチグラフィで異常集積を呈した症例の検討

田口正人，坂田博道，中條政敬，篠原慎治（鹿大 放）岡田淳徳，禰久豊嗣（鹿大 放部）

われわれは¹²³I-IMPシンチグラフィを脳腫瘍症例について検討していたところ、肺癌の脳転移症例で肺野に異常集積所見を認めた。そこで腫瘍部への集積の可能性があるのでないかと考え肺癌10症例・悪性黒色腫のリンパ節転移1例・眼窩部偽腫瘍1例について検討した。肺癌の6例に於いて肺野の異常集積所見が認められたが、胸部X線写真、CTとの対比では、集積の大部分は腫瘍部ではなく周囲や他部位であった。これらの集積については炎症性変化が疑われたが、詳細については今後さらに検討を要すると考えられた。また、悪性黒色腫のリンパ節転移、眼窩部偽腫瘍でも集積が認められた。